

板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について

板橋区コミュニティ・スクール（iCS）について、各学校や委員会の現状を把握し、より学校や地域の現状に則した仕組みにするため、学校及びコミュニティ・スクール（CS）委員、地域コーディネーターを対象に、12月から2月下旬にかけてアンケート調査を毎年実施している。

この度、集計結果がまとまったので報告する。

記

1 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査まとめ

- ・学校回答用
- ・コミュニティ・スクール委員回答用
- ・地域コーディネーター回答用

2 今後について

本集計結果については、板橋区公式ホームページに掲載済みであり、4月12日（水）全体校長会において校長に周知し、各CS委員会でフィードバックしてもらう。

（ホームページ URL

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuiinkai/chiiki/community/1028732.html>）

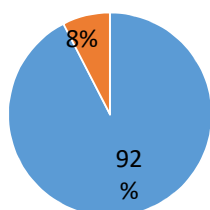
板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

令和4年度

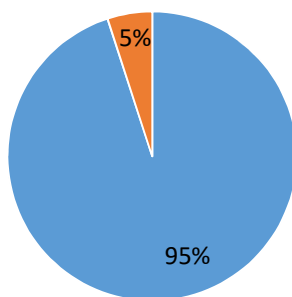
1

Q1 会議の開催数(年5回)は適当だと思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 適当 ■ 適当でない

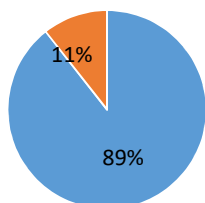
会議の開催数が適当だと回答した学校は約95%であった。

適当でないとする回答の中には、7回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

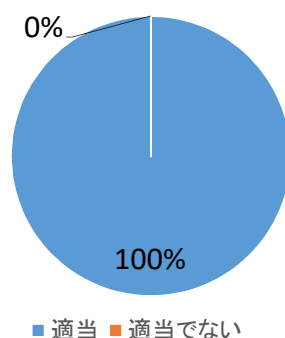
2

Q2 委員の人数(地域委員10人以内)は適当だと思いますか。

令和3年度



令和4年度

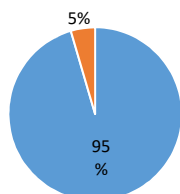


委員の人数は適当であると回答した学校は約100%であった。

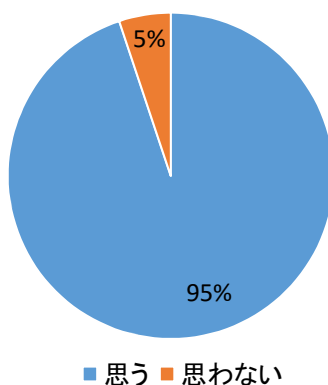
3

Q3 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和3年度



令和4年度

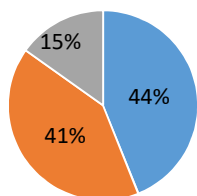


約95%の学校が熟議のテーマ設定が適切であったと回答した。
思わないと回答した中には、熟議のテーマ設定の困難さを感じる学校もあった。

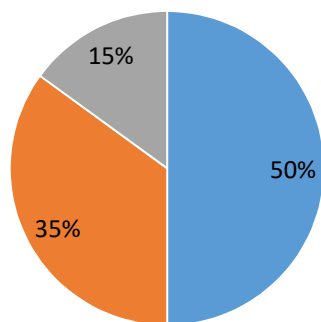
4

Q4 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和3年度



令和4年度



■ 毎回している ■ 1回はしている
■ していない

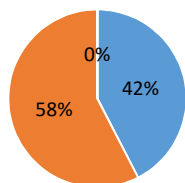
多くの学校で熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

熟議テーマについては、学校だけで決めるのではなく、委員長をはじめとする委員と話し合っ
て決めることが望まれる。

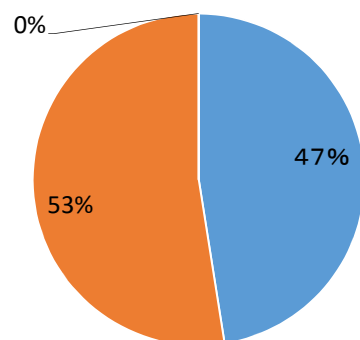
5

Q5 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和3年度



令和4年度



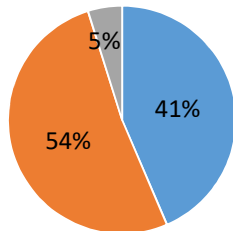
■ 全て共有できている
■ 一部共有できている
■ 共有できていない

昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

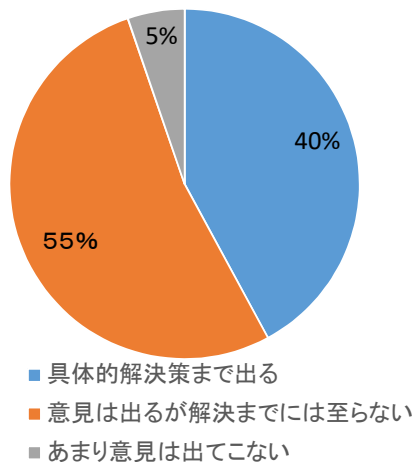
6

Q5-2（すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校）
学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出ますか。

令和3年度



令和4年度

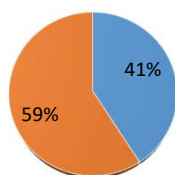


問5で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校が41%から40%とわずかに減った。具体的な解決策までに至らない学校がまだ多くみられる。

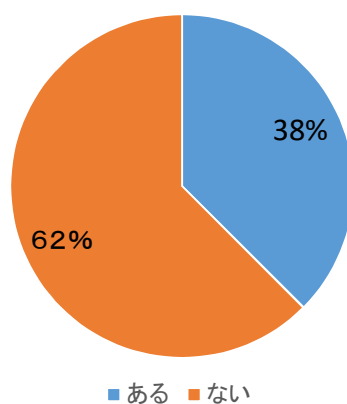
7

Q6 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。

令和3年度



令和4年度

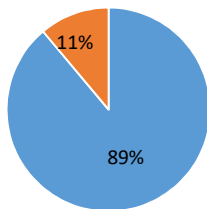


C S委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約40%であった。

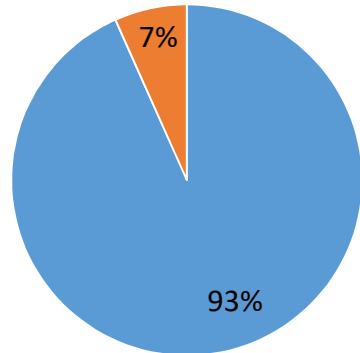
8

**Q6-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。
(あると回答した学校)出された意見を当該方針に反映させましたか。**

令和3年度



令和4年度



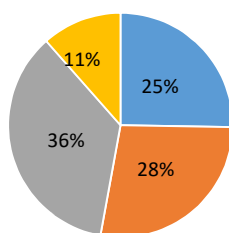
■ 反映させた ■ 反映できなかった

説明の際には、なるべく専門用語を用いず、平易な言葉で説明する等、委員が理解でき意見が言いやすい環境を整えることが求められる。

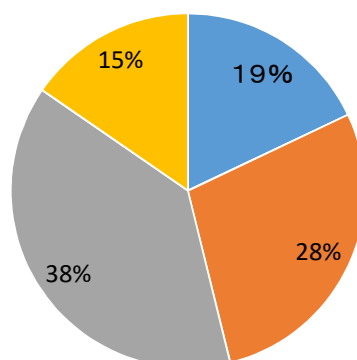
9

Q7 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。

令和3年度



令和4年度



■ 委員長 ■ 校長 ■ 副校長 ■ その他
(地域コーディネーターなど)

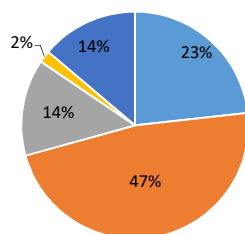
熟議の進行を委員長等の地域人材が担っている学校は、約34%であった。

学校がメインで進行する学校がまだ多いが、徐々に委員に任せる学校が増えることが望まれる。

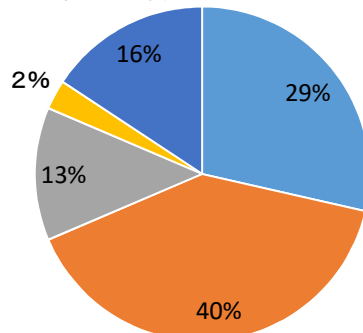
10

Q8 CS委員や地域コーディネーター、iCS活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。

令和3年度



令和4年度



■ iCSだより ■ 学校だより
■ 保護者会や地域の会合 ■ 周知していない
■ その他

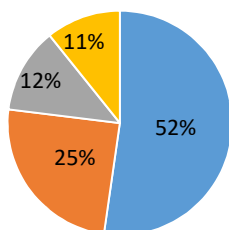
iCSの活動の紹介や周知について、学校だよりで行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページに掲載しているという学校も多くあった。

保護者や地域の方にiCSを浸透させるためにも、今後も継続して行うことが望まれる。

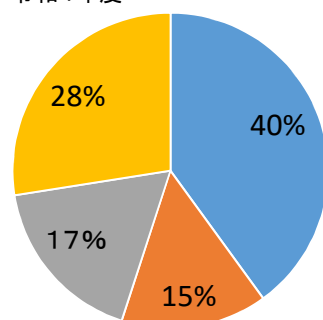
11

Q9 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 両方必要 ■ 書面開催は必要
■ WEB開催は必要 ■ どちらも必要ではない

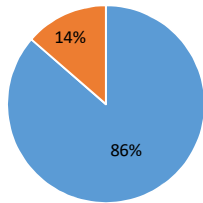
書面開催及びWEB開催が必要だと思う学校は、約72%であった。昨年度より減小した。

長引くコロナ禍において必要ではあるが、より深い熟議を行うためには、顔を合わせて会議を行うことが理想であるとの意見もみられた。

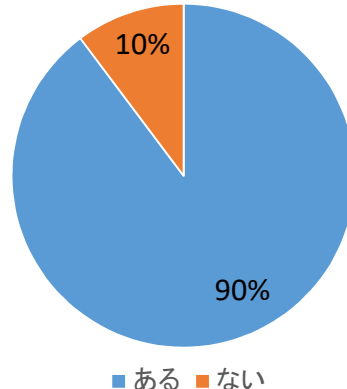
12

Q10 委員に会議以外(運動会等の行事・卒業式等の式典など)で委員として参加している、もしくは参加してもらいたい行事はありますか。

令和3年度



令和4年度



■ある ■ない

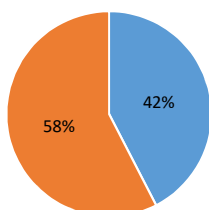
約90%の学校が、委員に参加してもらいたい行事があると回答した。特に、卒業式や入学式等の式典、運動会や音楽会等の行事が多くみられた。

委員として日常的に学校に来てほしいという意見もあった。

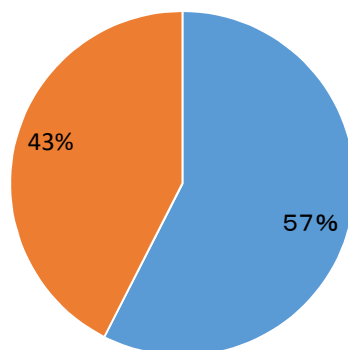
13

Q11 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。

令和3年度



令和4年度



■ある ■ない

委員の人選に課題を感じているとする学校は約57%であった。

【主な意見】

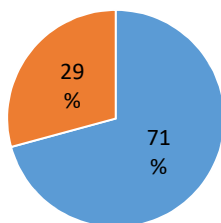
- 人材情報が少ない、委員の変更が難しい。
- 新しい人材や学識経験者等を発掘していくことが難しい。
- 現役の保護者等への、委員依頼の難しさ

など

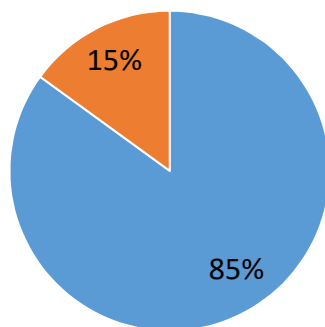
14

Q12 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 思う ■ 思わない

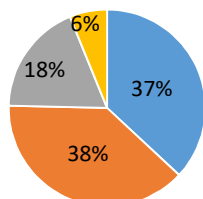
地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約85%であった。

現在の地域コーディネーターの不足だけでなく、後継者不足等の課題を抱えている学校もある。

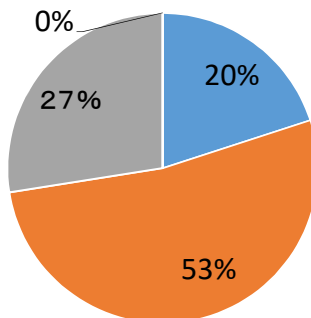
15

Q13 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和3年度



令和4年度



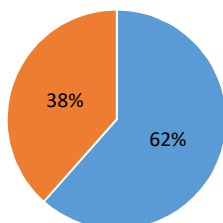
■ とても活発 ■ どちらかといえば活発
■ どちらかといえば活発ではない ■ 活発ではない

「活発である」と回答した学校は、約53%であった。「とても活発」と回答した学校が20%と昨年度より減少した。より活発に活動することを望む学校もあると推測される。

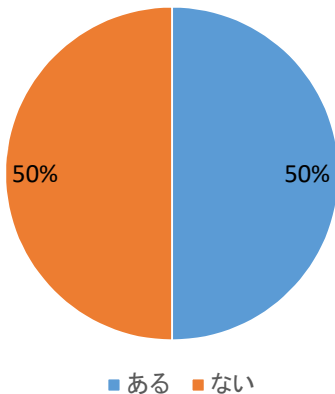
16

Q14 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和3年度



令和4年度



学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約50%であった。

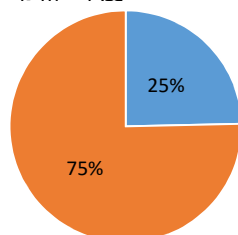
【主な意見】

- 地域人材の活用
- 地域コーディネーターの確保
- ボランティアのなり手不足
- 保護者、地域への事業周知が不十分 など

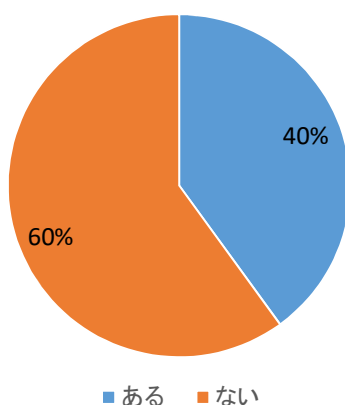
17

Q15 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和3年度



令和4年度



直接ボランティアとつながっている学校は、約40%であった。

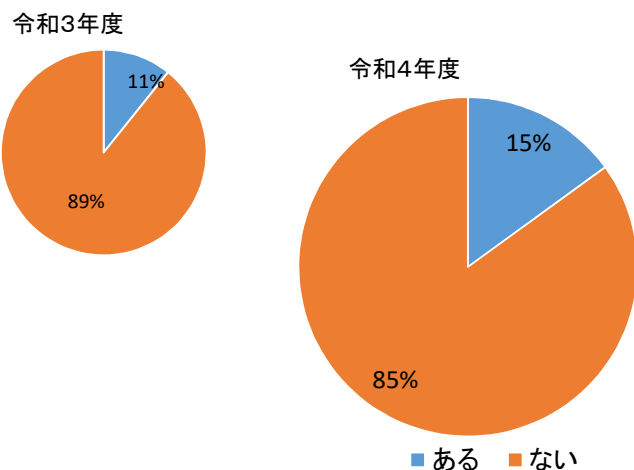
学校支援地域本部が実施される前からの繋がりが継続していると推測される。

【主な取組】

- 学習支援ボランティア
- 放課後学習教室のボランティア
- 学生ボランティア
- 校外活動の引率補助 など

18

Q16 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

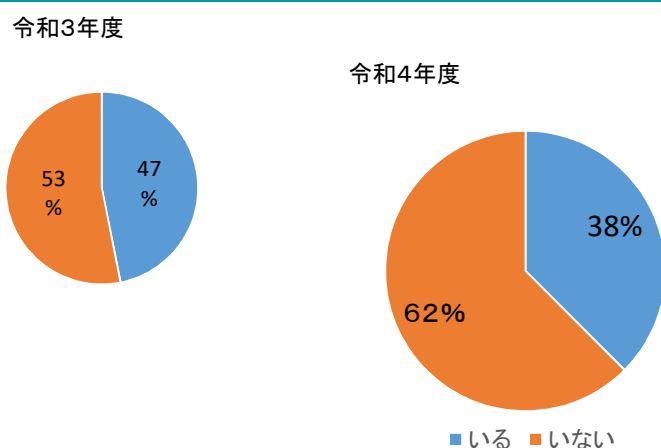


令和2年度より、地域コーディネーターの中心的役割を担う統括コーディネーターを設置しているが、統括コーディネーターに相談したいとする学校は約15%と少数であった。

統括コーディネーターの存在や活動内容を周知していく必要がある。

19

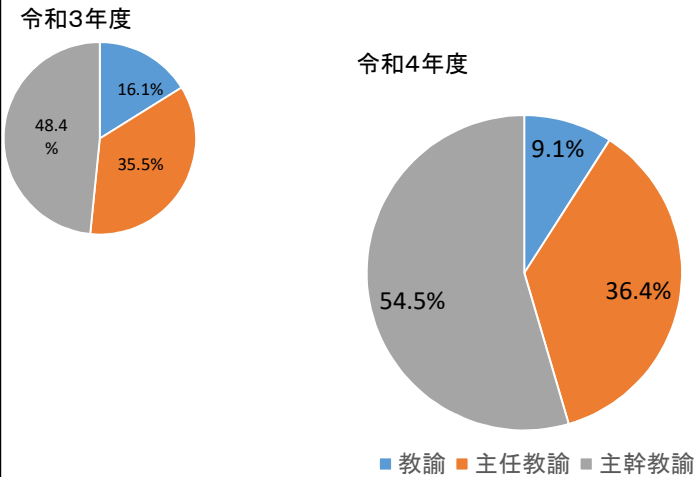
Q17 地域連携担当教員を校務分掌に位置付けていますか。



約38%の学校が、地域連携担当教員を校務分掌に位置付けていると回答した。

20

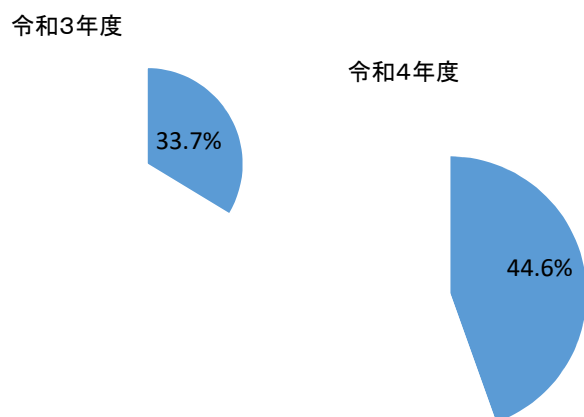
**Q17-2 地域連携担当教員を校務分掌に位置付けていますか。
(いると回答した学校) 当該教員の職層をお教えてください**



地域連携担当教員を
公務分掌に位置付けて
いる学校の約半数が、
主幹教諭を位置付けて
いた。

21

**Q18 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員は
どのくらいいますか。**

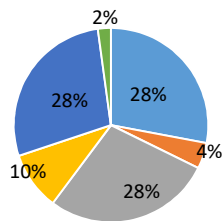


地域の力を活用すること
で業務量等が減ったと感じ
ている教員は約44.6%
であった。
昨年度から、大幅に増加し
た。

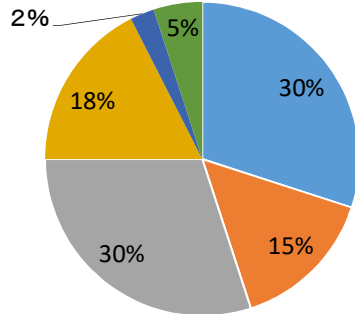
22

Q19 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和3年度



令和4年度



■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ ■ ⑤ ■ ⑥

- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
③地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④地域人材の学校経営への参画
⑤地域への学校施設の開放
⑥その他

①、③を必要とする学校がそれぞれ30%であった。
熟議の実施を必要とする学校が大幅に増えた。

23

Q20 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
教育委員会事務局職員にも各校のiCSを訪問し、委員の役割を周知してほしい。	積極的に各CS委員会に赴き、現状を把握し、必要に応じてiCSについて説明するように努める。
CS委員や他地区からの転入教員に対して、研修会や説明会等を行ってほしい。	また、マニュアル等を整備し、iCSや学校運営についての理解を促進する。
教職員が参加する熟議を行いたい、勤務時間との関連で、全員が集まる時間を設定するのが難しい。	その上で、研修や説明が必要となる人材を見極め、適切な情報等がいきわたるような仕組みを構築する。
CS委員会での活動できる予算がほしい。	教職員との熟議については、実施していただくことが望ましいが、各学校の事情に応じて検討していただきたい。
	CS委員会は、iCSにおける経営部門のため、予算執行を行っておらず、実働部門である学校支援地域本部に対し、消耗品等の予算措置を行っている。
	iCSをより一層推進するため、運用方法等について研究する。

24

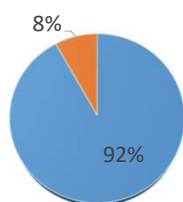
板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《CS委員回答用》 まとめ

令和4年度

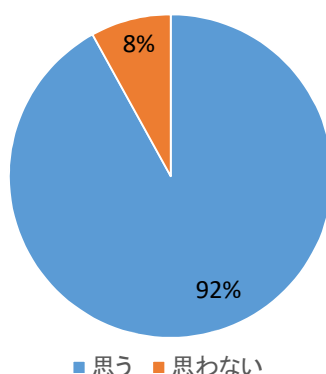
1

Q1 会議の開催時間や開催時期・開催数は適切であったと思いますか。

令和3年度



令和4年度



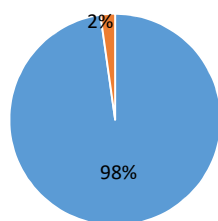
約92%の委員が会議の開催数等は適切であったと回答した。

思わないとする回答の中には、CS委員会が本来の役割を果たすためには、会議の回数や時間数が足りないとする意見がみられた。

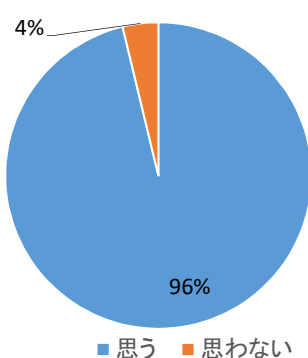
2

Q2 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 思う ■ 思わない

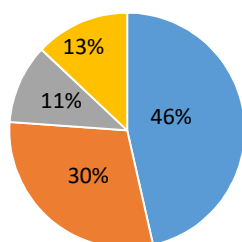
熟議のテーマが適切であったと思う委員は、約96%であった。

思わないとする回答の理由として、「1年間を通して議論するテーマも必要である」「熟議のフィードバックがないため、適切かわからない」との意見がみられた。

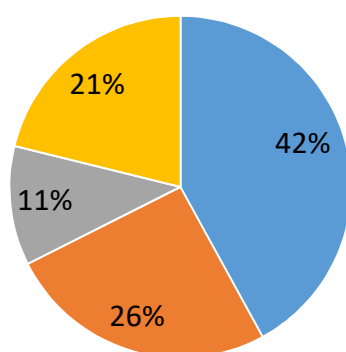
3

Q3 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 両方必要
■ 書面開催は必要
■ WEB開催は必要
■ どちらも必要ではない

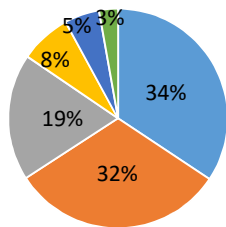
書面開催及びWEB開催が必要だと思う委員は、約79%であった。

状況によっては必要であるが、より深い熟議を行うためには、顔を合わせて会議を行うことが理想であるとの意見が多くみられた。

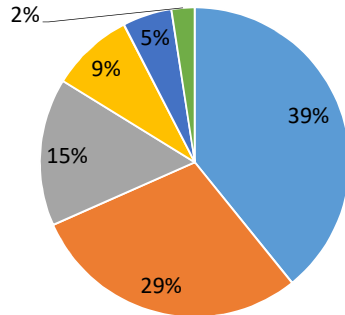
4

Q4 地域とともにある学校を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和3年度



令和4年度



■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ ■ ⑤ ■ ⑥

- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
 ②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
 ③地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④地域人材の学校経営への参画
 ⑤地域への学校施設開放
 ⑥その他

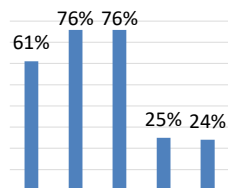
①及び②について、最も必要だとする回答が多かった。

意識の醸成や目標を共有できる熟議の在り方については当面の課題と考えられる。

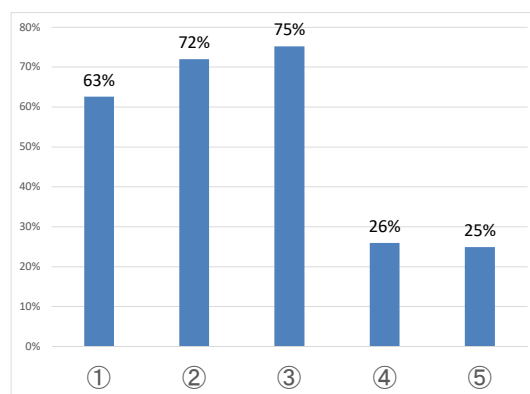
5

Q5 学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください。

令和3年度



令和4年度



- ①教職員の勤務時間
 ②教職員の職層の仕組み(校長・副校長・主幹教諭など)
 ③学校で働いている教職員の種別(教員、事務職員など)

- ④教育課程の編成の仕組み
 ⑤教職員の異動の仕組み(異動対象者、任命権者など)

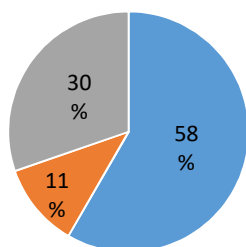
①～③については、多くの委員が理解していた。一方で④・⑤については、理解している委員は少数である。

委員が学校の仕組みを知ることが重要であるという意見も多くみられた。

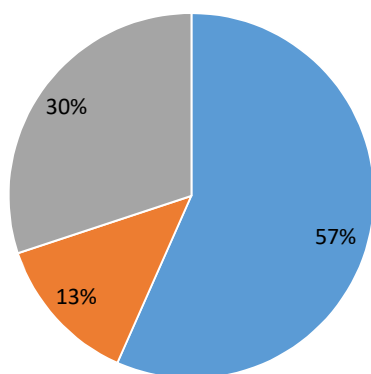
6

Q6 学校支援地域本部がどのような活動を行っているのか分かりますか。

令和3年度



令和4年度



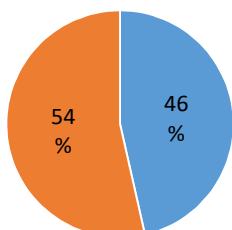
■ 分かる
■ 分からない
■ どの活動が該当するのか分からない

iCSの両輪である学校支援地域本部について、約57%の委員が分かったと回答しているが、委員の中には地域コーディネーターを含むため、実際の認知度はもう少し低いと推測される。

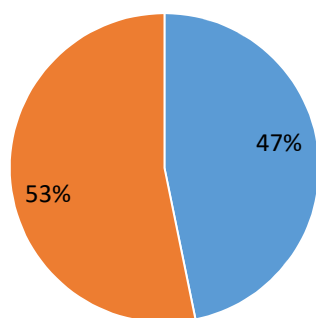
7

Q7 1年間(または2年間)CS委員として活動してみて、CS委員会について課題と感じていることはありますか。

令和3年度



令和4年度



■ ある ■ ない

約47%の委員がCS委員会に課題があると回答した。

【主な意見】

- 委員として役に立っているのか分からない
- 教員と直接話をする時間がもっと取れるとよい
- 委員の人選 など

8

Q8 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合にはご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
iCSの活動をよりよく継続させるために教育委員会には、適宜サポート体制を充実させてほしい。	CS委員会や学校支援地域本部事業等に積極的に赴き、各学校や委員、地域コーディネーターとコミュニケーションを図りながら、理解に努める。委員のCS委員会や学校についての理解を深めるため、研修会や情報交換会等を開催していく。
CS委員会の役割がまだつかみきれていない。	
教職員、保護者、地域関係者の理解がまったく進んでいない。	iCSレターの定期的な発行や、情報交換会等の開催を行い、情報共有等を充実させていくよう努める。学校やCS委員からも、学校だよりやiCSだより等を通じて、周知・啓発を行っていただきたいと思う。 教職員や保護者をゲストやオブザーバーとして参加できる回を設けるなど各委員会で検討していただくのも方策の一つと考える。
CS委員会をもっとたくさんの保護者の方に知ってもらえると地域や学校に関心を持ってもらえると思う。	

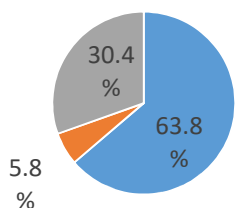
板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《地域コーディネーター回答用》 まとめ

令和4年度

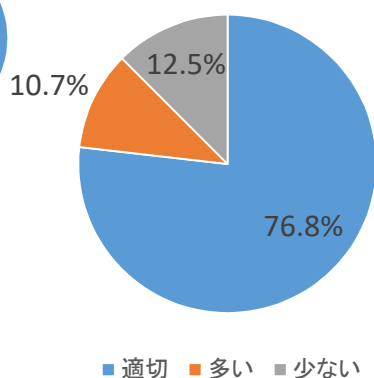
1

Q1 地域コーディネーターとしての活動の時間数は、総合的に見て適切だと思いますか。

令和3年度



令和4年度



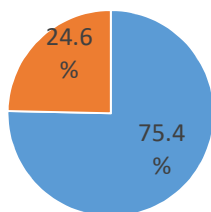
活動時間数が「適切である」とする地域コーディネーターは約76.8%であった。

新型コロナウイルス感染症の影響で減っていた活動時間が少しずつ戻ってきていると推測される。

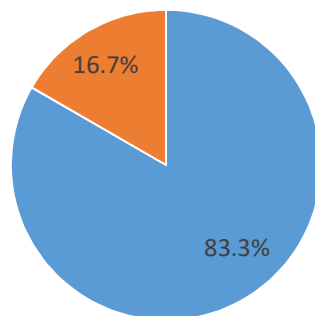
2

Q2 支援活動実施前に学校との打ち合わせは十分に行えていると思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 思う ■ 思わない

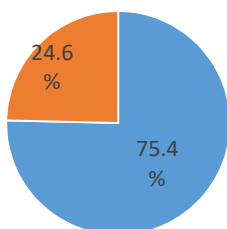
学校との打ち合わせが十分であるとする地域コーディネーターは、約83.3%であった。

コロナ禍であるが、昨年度から状況が変化してきたと推測される。

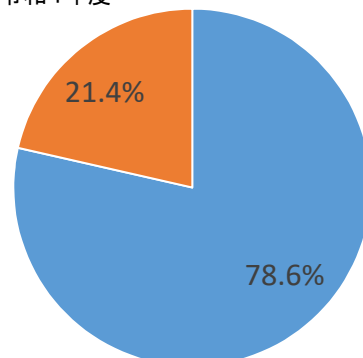
3

Q3 支援活動実施前にボランティアとの打ち合わせは十分に行えていると思いますか。

令和3年度



令和4年度



■ 思う ■ 思わない

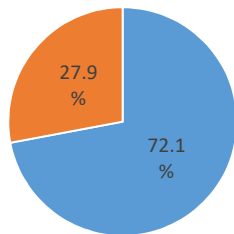
ボランティアとの打ち合わせが十分であるとする地域コーディネーターは、約78.6%であった。

思わないと回答する理由として、ボランティアとの連携方法の難しさを示していると推測される。

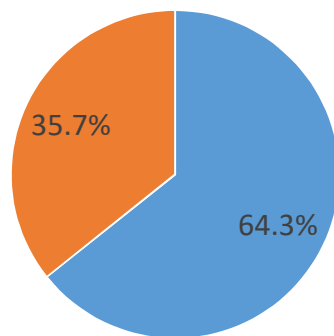
4

Q4 他の団体(おやじの会、PTA、寺子屋、町会、企業等)と連携ができていますか。

令和3年度



令和4年度



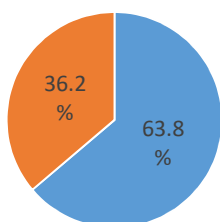
■ 思う ■ 思わない

他の団体と連携ができているとする地域コーディネーターは約64.3%おり、特におやじの会やPTAと連携をとれているとする回答が多かった。

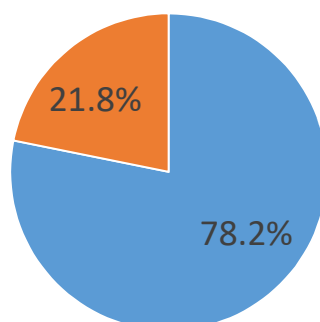
5

Q5 活動をするにあたって、課題と感じていることはありますか。

令和3年度



令和4年度



■ ある ■ ない

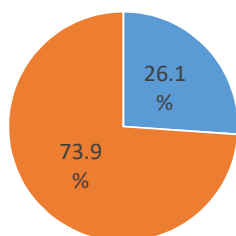
約78.2%の地域コーディネーターが課題を感じていると回答した。

ボランティアの募集方法や後任の育成について課題を抱えている地域コーディネーターが多くみられた。

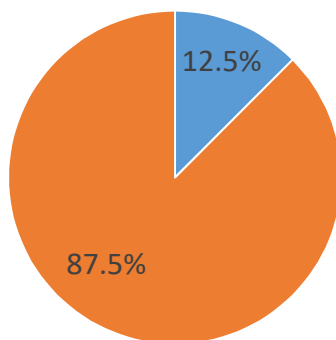
6

Q6 統括コーディネーターに個別に相談したいことはありますか。

令和3年度



令和4年度



■ ある ■ ない

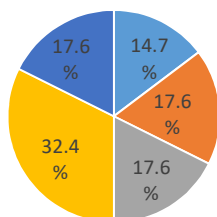
統括コーディネーターに相談したい地域コーディネーターは、約12.5%と昨年度より減少した。

コーディネーター情報交換会により統括コーディネーターに相談したい内容が含まれていたと推測される。

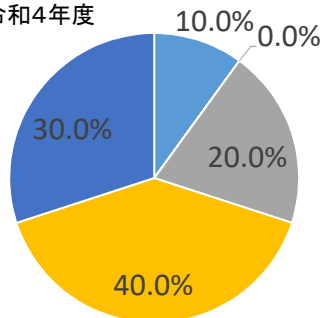
7

Q6-2 統括コーディネーターにどのような内容を相談したいですか。(複数回答可)

令和3年度



令和4年度



■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ ■ ⑤

① 新たな学校支援活動の開始方法

② 他校の地域コーディネーターとの連携方法

③ 学校との連携方法

④ 次世代のコーディネーター育成方法

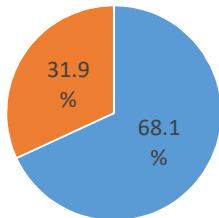
⑤ その他

問5の活動にあたっての課題としても挙げられていた、④「次世代のコーディネーターの育成方法」について相談したいとする回答が多くみられた。

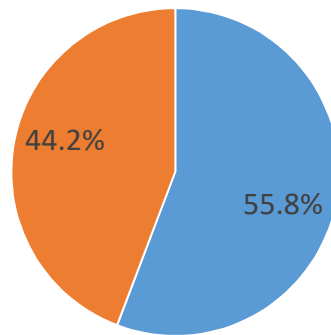
8

Q7 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。

令和3年度



令和4年度



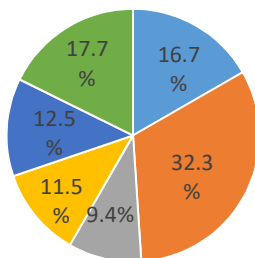
■ 思う ■ 思わない

約55.8%の地域コーディネーターが、CS委員会が学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると回答した。

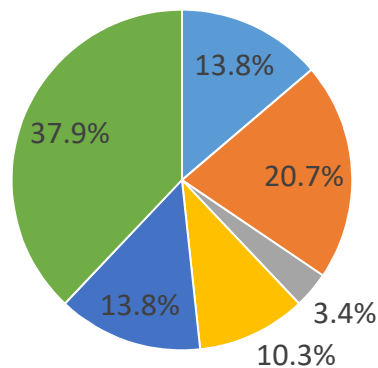
9

Q7-2 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。上記の回答理由を選択してください。(複数回答可)

令和3年度



令和4年度



■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ ■ ⑤ ■ ⑥

① 学校支援地域本部の知名度が上がった
② 学校のニーズがわかりやすくなった
③ ボランティアが集めやすくなった

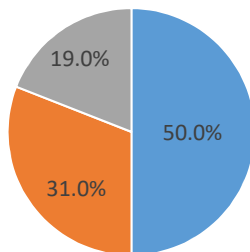
④ CS委員会との連携方法がわからない
⑤ 今までとの違いがわからない
⑥ その他

「その他（情報共有がしやすくなった等）」とする回答と併せて、「学校のニーズがわかりやすくなった」とする回答も多くみられた。

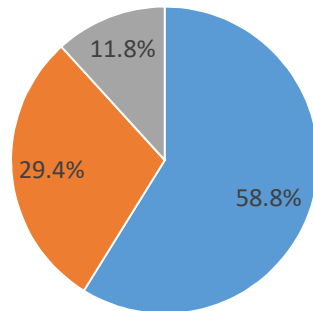
10

Q8 CS委員会で学校支援地域本部の活動について報告や相談をする機会がありますか。(CS委員に委嘱されている方のみ回答)

令和3年度



令和4年度



■ 報告は地域コーディネーター ■ 報告は学校 ■ 機会がない

CS委員会において、学校支援地域本部の活動を報告している委員会は約88.2%であった。地域コーディネーターが報告するCS委員会も増えている。

両輪・協働の関係として、多くの学校で活動報告を行っていることがわかる。

11

Q9 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
他校の活動状況を知ることができる機会をもっと作ってほしい。	iCSレターの発行や、研修会や情報交換会を開催する等、iCSが機能するような施策を展開していく。 また、研修会や情報交換会はできるだけ多くの方に参加していただけるよう、場所や時間帯について検討する。
情報交換会の時間帯を再考してほしい。	
消耗品費の予算が使いにくい。	予算については、より円滑に活動ができるような予算措置を検討していく。
学校や教育委員会がもっと地域、保護者にCS委員会や学校支援地域本部の活動について広報しなければ、ほとんどの人が認知していないと思う。	CS委員会や学校支援地域本部の広報については方法や内容を検討して行っていく。 コロナ禍において、保護者が学校に赴く機会が減って、今までのようにボランティアを集めるのが難しいという意見もあるが、学校での広報についても引き続きお願いしたい。

12